

1年3組 国語科学習指導案

川崎市立平間中学校 菊地 圭子

1 育成を目指す能力（国語科として身につけたい力）

(1) 生徒の学習状況から

現在も読まれている昔話と古典とを読み比べ、その内容や面白さについて紹介できる力。

(2) 評価規準（国立教育政策研究所『参考資料』より）

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典にはさまざまな種類の文章があることを理解している。 (伝統的な言語文化に関する事項 (ア(イ)))

2 単元名 「4 古典との出会い—古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える—」

学習材名 「音読を楽しもう いろは歌」(光村図書 「国語1」)

「昔話のルーツを紹介しよう～古典の様々な作品について知る～」

- ① 「かぐや姫」, ② 「こぶとりじいさん」「舌切り雀(雀の恩返し)」「わらしべ長者」③, 「鉢かづき」, 「ものぐさ太郎」, 「一寸法師」, 「浦島太郎」, 「たにし長者」の絵本等
- ① 「竹取物語」, ② 「宇治拾遺物語」, ③ 「御伽草子」, の現代語訳や関連する本

3 単元・学習材について

「言語活動の充実」とともに教育内容に関する主な改善事項の一つに挙げられた「伝統や文化に関する教育の充実」を受け、学習指導要領（平成20年3月）では、内容の構成に〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。これにより、古典をはじめとする伝統的な文章や作品に触れることの意義が明確化された。

そして、中学校学習指導要領解説国語編（平成20年3月）では、「小学校の学習を踏まえ、中学校ではより一層古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり深めたりすることを重視して指導する。」とある。

つまり、国語科においては、言語活動を行う能力を培うことと古典指導の充実を図ることの両面を効果的に指導することが課題である。古典の指導においては、音読・朗読・暗唱など音声言語の活動を重視して取り組んできたが、過去の実践を振り返ると、古典に親しませることが十分にできていなかったと実感している。また、新学習指導要領では、古典は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を通し、指導するよう述べられている。

そこで今回は、古典や言語文化への興味・関心を高める指導の工夫として、幼いころより親しんできた昔話、神話、伝承（絵本・小学校低学年向き読み物）を導入教材として取り上げることとした。国語の「読むこと」領域における「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」（新学習指導要領 第1学年の指導事項）の指導として、それらの基になった原典（口語訳）の内容とを読み比べる。読み比べの活動は、小学校新学習指導要領 国語において、言語活動例の一つとして明示されている学習活動で、今回の授業ではその「読み比べ」の活動を、グループでの話し合いや発表などの活動を取り入れた形で実施する。そして言語文化として、各時代にわたり受容されてきた物語作品の内容の変容に気付かせる授業展開により、古典の面白さを味わわせる。それらの学習活動を通し、言語文化への関心を高め、古典に親しむ態度の育成を図るものとする。

4 単元・学習材における評価規準

(1) 具体の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 古典の文章に関心をもち、その内容を進んで紹介しようとしている。	② 現在も読まれている昔話と古典を読み、級友に紹介するという目的に応じて必要な情報を読み取っている。	③ 古典にはさまざまな種類の文章があることを理解している。

(2) 中心となる言語活動

昔話とその原点の内容の違いについて読み取ったことを、話し合い活動によりまとめ、各自のワークシートを完成させる。

5 能力育成のプロセス(4時間扱い 本時は3時間目)

次	時	評価規準 (①から③は、4(1)の評価規準の番号)	A : Aの状況を実現していると判断する際のキーワードや具体的な姿 C : Bの状況を実現するための手だて
1	1		
2	2	② 現在も読まれている昔話と古典を読み、他人に紹介するという目的に応じて必要な情報を読み取っている。	A・ 班で担当する作品について、一人ひとりが昔話と原点の現代語訳を読み比べ、内容の違いを読み取ることができる。 C・ 班で担当する作品について、一人ひとりが昔話と原点の現代語訳を読み比べるようにする。
3	3	① 古典の文章に関心をもち、その内容を進んで紹介しようとしている。 ② 現在も読まれている昔話と古典を読み、級友に紹介するという目的に応じて必要な情報を読み取っている。	A・ 古典に興味を持ち、進んで話し合い活動に参加し、自分の意見を伝え、相手の発言を聞き取ろうとしている。 C・ 班の意見として出されたものを、ワークシートに記入するように声をかける。 A・ 昔話と古典を読み比べ、内容の違いを読み取っている。 C・ 机間指導で、場面の展開や登場人物の言動など読み取る視点を指摘する。
4	4	③ 古典にはさまざまな種類の文章があることを理解している。 ① 古典の文章に関心をもち、その内容を進んで紹介しようとしている。	A・ 昔話のルーツになった古典について、その内容と面白さを紹介しようとしている。 C・ 班で協力して発表できるように声をかける。 A・ 他のグループの紹介を聞いて、考えをまとめる。 C・ 他のグループの紹介を聞いて、自分の感想をワークシートに書くように声をかける。

主たる学習活動・中心となる言語活動（下線）	留意事項	時
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「暗唱マラソン」の「いろは歌」に着目して暗唱する。 ○ ここでの学習の狙いについて確認する。 ○ 古典とは何か理解する。 ○ 古典は歴史的仮名遣いで書かれていることを知り、現代仮名遣いとの違いを理解する。 ○ 古典学習の導入として、昔話の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の流れについてのガイダンス。 ○ 小学校での古典の学習を振り返らせる。 	1
<ul style="list-style-type: none"> ○ 9の昔話の大まかな内容を理解し、取り組んでみたい作品を決める。 ○ 昔話の原点に当たる古典「現代語訳」を確認し、自分たちの班で読み比べる作品を確認する。 ○ 昔話と原点の現代語訳を、登場人物や話の展開を中心に読み比べ、各自ワークシートにまとめる。 ○ 昔話の絵本と、元となった古典の現代語訳、関連する本などを読み、紹介したい内容についてまとめる。 ○ 話し合い活動の進め方や活動内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ作品を選んだ人でグループを作る。 ○ 学校図書館を活用し、複数の本や資料から情報を得させるようにする。 	2
<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで、紹介したい内容を決める。 ○ <u>昔話とその原点の内容の違いについて読み取ったことを、話し合い活動によりまとめ、各自のワークシートを完成させる。</u> ○ 口頭で紹介するための練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔話と比べることを通して、古典について自分なりの考えを持てるようにする。 	3
<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに、調べて考えた内容について口頭で紹介する。 ○ 昔話のルーツになった古典について、その内容と面白さ、内容の相違点を紹介する。 ○ 他のグループの紹介を聞いて、考えをまとめる。 ○ 次のことをワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 自分が取り上げた古典との比較。 (イ) 紹介を聞いてわかった面白さ。 ○ 自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 学習内容を振り返る。 (イ) 今回の学習で、古典についてわかったこと、関心を持ったことを文章に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの全員が、紹介を分担するようになる。 ○ 複数の本や資料から引用するようになる。 ○ これからの古典の学習への期待も書かせるようにする。 	4

6 指導上の工夫

- 『中学校学習指導要領』（平成20年3月）における「読むこと」の指導を通して指導するとともに、その系統性も意識していくことも一つのポイントである。今回の指導では、小学校の「読むこと」・中学2・3年の「読むこと」の指導も踏まえ、学習の連続性を保証したい。

第2章 各教科 第1節 国語 第1 各学年の目標及び内容 2 内容

[C 読むこと]

(小学校 第1学年及び第2学年)

カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

(小学校 第3学年及び第4学年)

カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

(小学校 第5学年及び第6学年)

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

(中学校 第1学年)

カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

(中学校 第2学年)

カ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

(中学校 第3学年)

カ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

- ・現在も読まれている昔話とその元になった古典を読み、その内容や面白さなどを紹介する。

7 「言語活動の充実」の視点から考えられること

- ・古典にはさまざまな種類の文章があることを理解することができる。

8. 本 時(3時間目)

本時のめあて(つきたい力)： 現在も読まれている昔話と古典を読み、級友に紹介するという目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。

本時の展開

流れ	評価と支援 (☆=評価 ・=支援)	学 習 活 動	指導上の留意点 (指示・発問)
定着		<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員で暗唱マラソンの課題に取り組む。 斉読・グループ読み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢と発声に気をつけさせる。 ・ 自信がない場合はカード参照も可。
導入 意欲付け		<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあてと本時の流れについて教師の話聞く。 ○ 「本時のめあて」を音読する。 ○ 本時の目標をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔を上げて話を聞くように声を掛ける。 ・ 説明は簡潔に短く。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9の昔話について、原典があり、長い間語り継がれてきた理由があることを説明する。 ☆ 現在も読まれている昔話と古典を読み、級友に紹介するという目的に応じて必要な情報を読み取っている。 A・ 昔話と古典を読み比べ、内容の違いを読み取っている。 C・ 机間指導で場面の展開や登場人物の言動など読み取る視点を指摘する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">ワークシートへの記入</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昔話には元になった原典があるものと、伝承によるものがあることを知る。 ○ 原典が存在しないのに、現代に伝えられている昔話があることに気付き、長い間語り継ぎ読み継がれてきた理由を考える。 ○ 班で担当する昔話を中心に、原典に当たる古文の現代語訳を一人ひとりが読み、場面の展開や登場人物の言動を読み取る。 ○ 登場人物、あらすじ(話の展開)を中心に読み比べ、各自で違いをみつけ、ワークシートに記入する。 ○ 班活動での話し合いや、まとめの方法を理解する。 ○ 同じ絵本で、中間発表会を行う。 ○ グループの話し合い活動により、昔話と古文の内容の違いについて、自分が気づかなかった事柄をワークシートに追加記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔話を伝統的な言語文化の一つとしてとらえ、昔話とその原典に対応する古典を知り、班で読み比べる作品を確認する。 ・ 班ごとに司会を決めさせる。 ・ 話し合い活動が円滑に進むよう机間指導をし、必要に応じて助言をする。 ・ ワークシートの記述が進まない生徒には、個別に指導・助言をする。
まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返り、活動内容をまとめる。 ○ 本時の取り組みに対する自己評価をする。 ○ 次時の学習予定を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動をしっかり振り返らせる。時間の確保。